

ケータイ・ファミリールール作成ワークショップ ～スマホとタブレットの特徴をふまえて～



〈阿濱茂樹先生〉

日時：平成25年10月12日（土） 10:00～12:00
会場：山口大学教育学部附属教育実践総合センター 授業実践演習室
講師：山口大学教育学部 准教授 阿濱 茂樹 氏
参加者：20人

スマートフォンの急速な普及に伴って私たちの生活が便利になってきた反面、十分な知識をもたない子どもたちがネット犯罪に巻き込まれる危険性もいっそう高まってきています。今回の講座では、小学校5・6年生から中学生の保護者とその子どもや家庭教育支援関係者の皆さんに、スマートフォンやタブレットの特徴とネット社会の現状を、講師の先生にお話をいただきました。また、受講生の皆さんに、スマートフォンやタブレットを子どもに持たせる際の家庭でのルール作りを考えていただきました。途中、大人と子どもが別室に分かれ、子どもたちはインターネットのよさと危険性について考え、大人はSNSの利用によって子どもたちが巻き込まれたトラブルの実例を聞きました。

1 情報社会の特徴〈光と影〉

インターネットなどのネットワークシステムや情報機器の発展に伴い、情報のやりとりが簡単にできるようになったことで、**利便性〈光〉**と**危険性〈影〉**をもたらしました。

インターネットの光と影

- 〈光〉便利・効率がよくなる（⇒情報の格差がなくなり、どこに住んでいても最新の情報を入手可能。）
情報収集、買い物（ネットショッピング）、ネットゲーム、ブログ など
- 〈影〉簡単・安易に情報を受発信できる（⇒誰かを傷つけたり、時には加害者になったりしてしまう）
有害情報、学校裏サイト、ネットいじめ、無責任な書き込み など

なぜ、子どもの世界ではネットでの問題がこれほど大きくなるのか

大人と子どもとはコミュニケーションの相手がずいぶん異なる。大人は通常、複数のコミュニティの中で生きているが、子どもたちはとても狭い限られた集団（学校・部活動・塾等）の中で生きている。そのため、ネットの世界がすべてだと勘違いしやすく、ネット環境に依存しやすいのではないかと考えられる。

インターネットを使い始める前に子どもに知らせること

- ・ ネット社会には、よい人もいるが悪い人もいる。
- ・ よい人にとって便利な道具であるということは、悪い人にとっても便利な道具である。
- ・ ネット社会には様々な考えの人がいて、これまでは知り得なかった人と出会ってしまうことがある。
- ・ ネットから得られる情報は、本物の有用な情報もたくさんあるが、悪意のある嘘や勘違いした情報が混在していることがある。

ケータイを持つ前に子どもに知らせること

- ・ 依存しやすい。⇒依存しないこと。
- ・ 情報が膨大すぎて、伝えたい相手にうまく情報が伝わらないことがある。⇒自分の思い・気持ち・得た情報は、言葉を正確に使って、正確に相手に伝えること。
- ・ 情報だけがひとり歩きし、感情がもつれやすい。⇒相手の気持ちをくみ取り、相手を思いやる気持ちを持つこと。



〈講座の様子〉

2 携帯電話とスマートフォン

子どもたちのネット環境における新たな問題点を理解するために、従来の携帯電話とスマートフォン（タブレット）との違いを明確にすることが大切です。

携帯電話とスマホの違い

機能的な違いはたくさんあるが、一番の問題点にフィルタリングの違いが挙げられる。携帯電話は、基地局から発信される電波で通信を行うため、携帯電話会社のフィルタリングサービスが確実に有効であるが、スマホやタブレットは、基地局から発信される電波と無線LAN（以下Wi-Fiという）を切り替えて使用することができ、Wi-Fiでアプリケーション（以下アプリという）を利用してインターネットに接続する場合には、従来のフィルタリングサービスが有効とならない場合がある。

行政の対応

携帯電話に関するフィルタリングについては、2009年4月に「青少年インターネット環境整備法（青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律）」が施行され、18歳未満の青少年が利用する携帯電話については、保護者が不要の申し出をしない限り、フィルタリングの利用が条件となっており、携帯電話事業者は無償でフィルタリングサービスを提供している。

スマートフォン・タブレットが得意なこと

- ・ 機能の追加 ⇒ アプリが豊富。第三者が作成したアプリを簡単に追加できる。
- ・ データ管理 ⇒ OS(※注)がパソコンと同じ。
- ・ 情報の共有 ⇒ インターネットに接続でき、パソコンとほぼ同等のデータ通信が容易である。
- ・ 所在地の把握 ⇒ GPS機能を使って位置情報（約10m程度の誤差）を管理できる。

トラブルの実例

- ・ スマホを盗まれ、自分の情報だけでなく友達の個人情報も流出してしまい、友だちのスマホにも心あたりのない変なメールが届くようになった。
- ・ ゲームアプリが、スマホに登録してあるデータを勝手に外部に送信してしまい、仲のよい友だちとの会話を他人が覗き見していた。
- ・ 自宅で撮影した写真をネットに公開したら自宅住所が露見してしまい、ストーカー被害につながった。

トラブルに巻き込まれないために

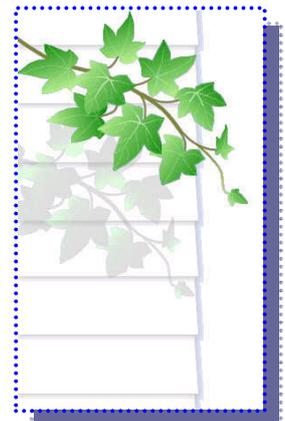


子どもにスマホを持たせたら…

- ・ パスワードロックをする。（他人にパスワードを教えない）
- ・ ウィルスチェック用アプリをインストールする。
- ・ アプリをインストールする時は、親と相談して必要かどうかを判断し、利用規約をよく確認してから使用する。
- ・ 自分の個人データを外部に提供しないようにする。
- ・ 位置情報を提供するアプリを把握する。不要ならば設定を外す。

スマホを使い始めてしばらくしたら…

- ・ OSを常に最新のものにする。
- ・ ウィルスチェック用アプリを最新のものにする。
- ・ 使わないアプリは削除する。
- ・ インストールしているアプリの信用評価（レビュー）を確認する。



(※注)OSとは、パソコンやスマホを動かす元になる基本ソフトのことをいいます。パソコンで言えば、「Windows」「Mac」などがそれにあたり、スマホで言えば、「アンドロイド」などがそれにあたります。

3 SNSの問題

SNS (Social Networking Service) は、人と人との社会的なつながりをサポートするサービスで、趣味や嗜好、居住地域、出身校、あるいは「友人の友人」といったつながりを通じて、新たな人間関係をつくる「場」を提供する会員制のサービスです。代表的なものに、Facebook、Twitter、Google+、mixiなどがあります。

SNS上で起こるトラブル

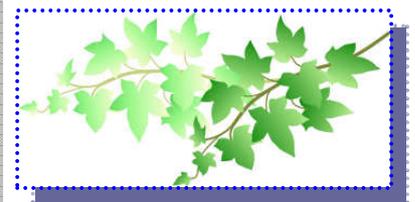
- ・ プロフィールの不適切な公開や、勝手な写真の公開によるプライバシーの侵害。
- ・ 無差別に送られるスパムメールやアダルトな広告、出会い系の友だち申請などへのアクセス。
- ・ 誹謗・中傷、守秘義務違反の記事やコメントの掲載。
- ・ 安易なグループ分けによる仲間はずれやネットいじめ。

子どもたちの世界で起こっていること

- ・ 相手から返事が来ないと怒る。メールのアプリによっては、発信者は自分が送信したメールを「既読」か「未読」かチェックできるため、受信者が読んだのに返信しないと思いこんでしまう。
- ・ 相手の反応が遅いと怒る。メールのアプリによっては、アプリを起動していないと受信ができず、メッセージを読めないため、受信者が何の反応もしないと思いこんでしまう。
- ・ 膨大な量の記事が流れているため、大切な記事を読み落としたり特定の人の行動が細かく把握されたりしてしまうことがある。

SNSを利用する前に知っておくべき注意事項

- ・ 自分が書いたSNSの記事を世界中の人が見るかもしれない。
- ・ SNSで発信した情報は決して取り消せない。
- ・ SNSで批判、評価、個人攻撃をしない。
- ・ 匿名で発信したつもりの記事も、個人が特定されることがある。



SNSを利用する時の各設定項目について

- ・ プロフィールの登録 <どの程度詳細に登録する必要があるか（目的は何なのか）>
- ・ プライバシーの設定 <どの範囲まで公開するのか>
 - 記事を見ることができる人の範囲
 - 連絡をとることができる人の範囲
 - 自分を検索することができる人の範囲「友だち」だけなのか「友だちの友だち」までOKとするのか

- ・ 広告表示の設定 <プロフィールの内容を元に広告が勝手に表示されてしまうことがある>
- ※ 各設定項目の意味を理解し、よく考えてから設定する。設定ミスによって、自分だけではなく、友だちの情報まで公開してしまったり、自分の気づかないところで**予期せぬ事態を引き起こしたり**することがある。

SNSの利用によるトラブルの実例

- ・ 「東京三鷹の高校生刺殺事件」 SNSで知り合ったことをきっかけに（実は、男性は自分のプロフィールを偽って登録していた）恋愛関係に発展した男女。その後、関係が壊れて男性が女性を刺殺。男性は別れたあと、付き合っていた頃の女性の性的な写真をその女性になりすまして公開していた。
- ・ ある店舗で対応した店員にクレームをつけて土下座させ、その写真と店員の氏名をSNS上に掲載したところ、店側から強要罪で告訴された。
- ・ 仲のよい友だち同士の間だけで会話していたはずの内容を、設定ミスにより見てほしくない人にまで公開してしまい、本人に陰口を見られてしまった。
- ・ SNS上で友だちがシェア（気に入った記事を自分の記事として公開）していた心理テストを実施したところ、知らないうちに個人情報収集されてしまった。
- ・ あるバイト先での上司への悪口をSNS上に掲載したところ、就職先の人事担当者に見られて内定を取り消された。

4 家庭でのルール作りに向けて

各家庭でスマホやタブレットを利用する際のルールを作ることをお勧めします。

ルール作りのコツ **場所・料金・相手・時間・マナー・機能** に着目

★ルールの作り方

ケータイ所持の目的を明確に！

小・中学生がケータイを持つ目的は、安全と連絡手段のため。

学年や年齢に合わせてルールの数を決める！

小学生⇒5～7個、中学生⇒8個、
高校生⇒10個 を目安に

十分な話し合いをする！

自分の生活スタイルにあった使い方かどうか、本当に必要か、生活の妨げにならないか。

ルールに沿ってケータイ機能を使いこなす！

- ・フィルタリングは決して外さない。
- ・知らない人からの着信を拒否する。
- ・アクセス制限をする。
- ・迷惑メールに対処する。
- ・SNSを使用するのかわからないのか。使用する場合は、設定項目をしっかりと理解して管理するスキルを身につける。
- ・写真機能をどこまで使用するか、どんな写真を撮ったか撮られたかをしっかりと把握する。
- ・ルールを理解し、ケータイを適切に使うために各機能をしっかりと勉強してマスターする。



ルールは定期的に見直す！

生活スタイルの変化、周りの環境やケータイ機能のサービス変更などがあれば、その都度よく話し合ってみる。

困ったときに相談できる人・機関を把握する！

保護者、学校の先生、地域の人、警察、各相談所など、相談先を知っておくこと。

※困ったときに一人で悩まない！ 悩む時間が長ければ長いほど事態は悪くなることが多い！

★具体的なルールの紹介

- ・充電をする場所 … (例) 自分の部屋ではなく、リビングで充電する。
- ・使用料金の上限額 … (例) 月額〇〇円までとする。
- ・利用終了時間 … (例) 午後10時まで。それ以降は携帯をリビングに置く。
- ・利用機能の限定 … (例) 写真は撮らない、撮らせない。SNSの利用は大学生から。

★ルールを実際に作ってみる

各家庭によって環境や状況も違うため、それぞれのルールがあってよい。各家庭で最低限守りたい基準を決め、それに合わせて細かなルールを作る。ただし、ルールは守れるものを作ること。たくさんあっても守りきれない。

受講者たちが実際に作ったルールの紹介

- 利用する時間を限定する。
- SNS設定の「友だち」の範囲を確認する。
- 知らない相手との通信はしない。
- 使う機能と使わない機能をはっきり分ける。
- 利用する場所を限定する。
- アプリの利用は親の許可を得てから。
- 個人情報を表示するサイトは使用しない。

5 まとめ

- 様々な情報機器に囲まれ便利になった情報社会において、実はたくさんの危険が潜んでいることを理解する必要がある。
- 子どもたちを危険から守るためには、社会や家庭でしっかりとしたルールを作り、そのルールを守り、一人ひとりが責任ある態度で利用することがとても大切である。
- 親子で一緒によく学び、明るい情報社会を構築する必要がある。

6 その他

- ★ 別室に分かれて、いっしょに参加した子どもたちも阿濱志保里先生とインターネットの「いいところ」と「悪いところ」について考え、模造紙にまとめました。

<参加した子どもたちの様子>



インターネットの「いいところ」と「悪いところ」を考えてみよう！	
「いいところ」	「悪いところ」
<ul style="list-style-type: none">• たくさんの情報がある。• 本よりもインターネットの方が調べやすい。• 本に載っていないことが載っているかもしれない。• わかりやすい。• どこでも利用することができる。• 字が見にくかったら拡大して見ることができる。• 通販で買い物をすることができる。	<ul style="list-style-type: none">• ずっと画面を見ていたら目が疲れる。• やりたいことをずっとやっていたら時間がどんどん経ってしまう。• 悪い人に個人情報を見られてしまう。• 知らないうちにトラブルに遭ってしまうことがある。

★携帯ゲーム機について

通信可能な携帯ゲーム機は、スマホとほとんど同じ機能を持つ。スマホとの違いは、ゲームをより複雑にできることと、通話ができない程度のことである。そのため、ケータイゲーム機を使う際にもルール作りが必要である。

受講生の方からいただいた貴重なご意見の一部を紹介します

- ★ 現在、あたりまえとなっている情報社会の中で、親の立場からの関わりが整理でき、よい学びとなりました。
- ★ まだ、スマホやタブレットを子どもに持たせていないのですが、持たせるうえでの問題点や注意することなどがわかり、勉強になりました。
- ★ あまりよくわからない世界でしたが、なんとなくわかるようになり、また不安が強くなりました。親が、親全体が、もっと“知る”必要があると思います。みんなが野放し状態だと、うちだけが対策しても限界があるように思います。
- ★ スマホに変えるのが怖くなりました。
- ★ 「タグ付け」や「フラグ」といった言葉の意味もいまいちわからなかったですが、今回は危険性を知ることができてよかったです。個人的には、外国人からのメールを止めたいけれど止め方がわからないでいます。そして、なぜ外国人からメールが来るのかも不明のままですが、アメリカ人歌手のユーチューブを見てから始まった気がします。
- ★ このような内容の講座を受講したのは2回目ですが、大変話の内容がわかりやすくよかったです。実際にLINEやFacebookをやったことがない人も多いと思うので、LINEの画面で「既読」というのを見せてほしかったです。「タグを付ける」という意味が理解しにくかった点がありました。「家族におけるルール」の具体例を提示いただけるともっと良かったと思います。お世話になりました。
- ★ 中学1年の長男がLINEを活用しており、子どもにまつわる様々な事件や事例をとおして、家族のルールを今一度確認する参考とさせていただきます。大変参考になりました。
- ★ SNS (Facebook) の利用を前提に、設定する際の注意点をわかりやすくお話してくださいましたが、実際スマホ利用の小～高校生（特に小学生）は、どれくらいFacebookを利用しているのかを知りたいと思いました。
- ★ 内容は、具体的でよくわかりました。ただ、講座を2回くらいに分けて、実際にアプリなどを使ってみたかったし、質問できる時間もほしかったです。
- ★ ケータイについて考えるきっかけになりました。
- ★ パソコン・携帯電話・スマートフォンなどに関する事件が多発して、逮捕者や被害者も増加している様子がかげえる現在、加害者にもなりたくないし、被害者にもならず生活できるのが理想なので、子どもだけでなく大人のためにも、このたびのような講座は広く公開していただければと思いました。

ご協力ありがとうございました。

